

モンゴル国公務員獣医師及び民間獣医師実践能力強化プロジェクト

プロジェクトニュース 2021年8月

【研修・研究グループ『ランピースキン病に関する獣医師のための実践能力構築』¹⁾の野外調査活動を実施しました。】

ランピースキン病とはランピースキン病ウイルス感染を原因とする牛や水牛の感染症であり、本来アフリカで発生していた疾病でしたが、近年隣国のロシアでは2015年に、中国では2019年に、カザフスタンでは2016年に本病が報告されています。

モンゴルにも生息するイエバエ、サシバエ、ヤブカ、ダニなどが原因ウイルスを媒介するとの報告もあり、モンゴル国内でランピースキン病が今後発生する、または既にウイルスが侵入している可能性が高いため、同研修・研究グループは、7月初旬にウランバートル市周辺、8月中旬に西部3県において、ウイルス保有状況調査を実施しました。

7月初旬の予備調査では、ウランバートル市周辺の川沿いの森林、草地において、飛来する蚊を捕虫網により収集し、吸虫管に集めて冷凍保存したほか、川周辺にCDCライトトラップを設置し、100匹程度の蚊を収集しました。

8月中旬の調査では、西部3県（バヤンウルギー県、ホブド県、ゴビアルタイ県）の国境付近地域より、牛の血液等のサンプル、蚊やハエのサンプルを採取したほか、各県の獣医師にはランピースキン病の症状、診断方法、モニタリング方法、予防方法についての資料を配布したほか、講習会を開催しました。さらに、住民の方々にも小冊子を配布し、知識の普及を図りました。

ウランバートル市に戻り、サンプルを用いてランピースキン病のウイルス検出や病原体を媒介する節足動物の特定を行う予定です。

1) グループリーダー：Erdenechimeg. D (IVM)

メンバー：Bazarragchaa. E (SCVL), Buyantogtokh. Kh (SCVL), Enkhmandakh. Yo (IVM), Odonchimeg. M (IVM), Delgerzul. G (SCVL), Dorj. J (TVO), Khuntsetseg. T (TVO), Gantumur. Ts (UVO)

アドバイザー：Dr. Yoshihiro Sakoda, DVM Lab. Microbiology Faculty of Veterinary Medicine, Hokkaido University



蚊を収集している様子（7月調査）



捕獲された蚊を吸虫管に集めている様子（7月調査）



河辺での CDC トラップ設置（7月調査）



CDC トラップに捕獲された蚊（8月調査）



牛血液サンプルを採取
（8月調査）



牧草地での蚊の収集
（8月調査）



獣医師対象講習会の開催
（8月調査）